

2011年6月21日

ロシア関連メモ 073

国際公共政策研究センター
主任研究員 神野 雅人

ロシア 2012 年問題関連(2):メドベージェフ大統領 FT 紙インタビュー

1. インタビュー概要

メドベージェフ大統領は、6月19日、サンクトペテルブルクにおいて英国フィナンシャル・タイムズ紙（以下「FT」）のインタビュー¹を受けた。インタビューは長時間で内容も多岐に渡るものであったが、メドベージェフがFTのこのようなインタビューを受けたのは、2008年の大統領就任直後以来のことである。

2. 2012年大統領選挙関連

インタビューのなかで、2012年大統領選出馬に関する質問に対し、メドベージェフ大統領は「大統領のようなポストにある者が2期目もやりたいと思うのは当然のことだが、それと現実に出馬するかどうかは別問題」と答え、さらに「近く決定する」と従来のコメントを繰り返すにとどまった。

だが、「もし大統領に再選されたら改革プログラムを実行するか」との質問に対しては、「大統領再選は憲法で認められている。もちろん、私は、自分が宣言した目標、すなわち経済及び政治システムを含む社会の近代化を達成するために全力を尽くす」と答えた。FTはこの回答を捉え「メドベージェフ大統領は再選意欲を明確にした」と報道している。

さらに、プーチン氏と大統領選挙を戦う可能性については、「自分とプーチン氏は同じ政治勢力に属し、共通の目標の実現に向けて努力してきた。今の状況において二人が戦うことは国家にとって最良のシナリオではない。」として否定した。

3. 政治的民主化

メドベージェフ大統領が特に力をいれるポイントとして強調したのが、政治的民主化の推進で

¹ インタビューの様相（一部）

<http://video.ft.com/v/1005835904001/Medvedev-edges-closer-to-decision-on-second-term> 及びスクリプト（全文） <http://www.ft.com/intl/cms/s/0/4bfa1f38-9a90-11e0-bab2-00144feab49a.html#axzz1PsfSPjuB>

ある。

メドベージェフ大統領は「政治的競争が制限されていながら市場経済が機能している国は実際に存在するが、ロシアにはそれは当てはまらない。自由な政治的競争の欠如は市場経済の根本が崩れることである。政治的競争は経済的な自由競争の反映である。」と回答し、政治的競争の必要性を強調するとともに、「議会には国民の多様な政治的意見が反映されるべきである」として、現在の下院の政党への議席配分足切りラインである 7%の得票率を、将来的に 5%から 3%へ引き下げたいとの意向をしめした。

知事公選制復活についても、ロシアは複雑な連邦制を取っているため現行制度が最良であるとしつつ、長期的な検討課題であることは認めた。

FT は、メドベージェフがこのように政治的民主化の推進を強調したことが、プーチン氏との路線の違いを明確にしたものと評価している。

4. その他

「改革の抵抗勢力は誰か」という質問に対し、メドベージェフ大統領は、「1つの敵は我々の内にあり、それは官僚機構、ロシア人の家父長主義的メンタリティー、競争の伝統の欠如である。もう 1つは蔓延する汚職であり、公務員に汚職による収入があることから、若者の公務員指向が強く、技術者やビジネスマン、法律家など近代化に必要な職業に就こうとしなくなっている」と問題点を指摘している。

また、マグネツキー事件²について「検事総長と内務省に対応を指示しており、報告を待っている。」と答え、さらに「問題はこれだけではない。マグネツキー事件より複雑で解決されていない問題が数多くある。」と汚職の深刻さを認めた。だが、ホドルコフスキー氏に対する昨年 12 月の勾留延長の判決³について「間違いだったのではないか」との質問に対しては、「判決を尊重する」と回答したのみであった。

² 2007年に発生した投資ファンド「エミルタージュ・キャピタル・マネジメント」に絡むロシア内務省及び租税当局の役人による巨額汚職疑惑事件。事件を告発した弁護士セルゲイ・マグネツキー氏が逮捕・勾留され、2009年 11月に留置所で死亡した。ロシアの汚職の象徴的事件として国際的に問題化している。

³ オリガルヒ（新興財閥）の 1人で元石油会社ユコス社長のミハイル・ホドルコフスキー氏が、当時のプーチン大統領批判を強め、野党に資金援助を行う等対立を深めた結果、2003年に逮捕され、2005年に脱税等の罪で禁固 8年の実刑判決を受けた。ユコスは国営企業ロスネフチによって吸収された。さらにホドルコフスキー元社長は別の横領罪等に問われ、2010年 12月に 2017年までの禁固刑が下されたが、裁判長の補佐官が 2011年 2月に、判決文は上級の裁判所から押し付けられたものという内部告発を行った。判決前にプーチン首相がホドルコフスキー氏について「泥棒は牢屋にいるべきだ」と発言したこともあり、司法への政治介入の存在を伺わせる事件となった。

5. コメント

2012年大統領選挙については、メドベージェフ大統領が5月18日にスコルコヴォで行った大規模な記者会見⁴で、期待されていたにもかかわらず出馬宣言を行わなかったが、その一方でプーチン首相が「全ロシア人民戦線」⁵及び「戦略的イニシアティブ・エージェンシー (SIA)」⁶を設立する等着々と基盤固めに動いていることから、プーチン氏の大統領復帰が濃厚との見方が強くなっている。ロシア国内では、メドベージェフ大統領が近く2012年大統領選への不出馬を表明するのではないかと憶測もある模様である。

そのような状況下で、メドベージェフ大統領が西側主要メディアの1つであるFTに今回のインタビューのような発言をしたことは、大統領自身、未だ再選への意欲を捨ててはいないことを示すものであることは間違いない。

しかし、今年12月の議会選挙まで半年を切り、2012年3月の大統領選挙まで9ヶ月となった現時点においてメドベージェフ大統領が正式に再選を目指すことを表明できないこと自体やや異常な事態と言うこともでき、そのことがロシアの政治動向の不確定要素を強め外国企業等のロシアへの投資意欲に影響を及ぼしていることは間違いないであろう。

以上

⁴ 記者会見の内容については、ロシア関連メモ No.69「ロシア 2012年問題関連(1):メドベージェフ大統領記者会見」(2011.5.20) http://www.cipps.org/group/russia_memo/069_110520.pdf 参照。

⁵ 全ロシア人民戦線については、ロシア関連メモ No.67「全ロシア人民戦線構想とその評価」(2011.5.11) http://www.cipps.org/group/russia_memo/067_110511.pdf 及び同 No.68「全ロシア人民戦線関連(その2)」http://www.cipps.org/group/russia_memo/068_110518.pdf 参照。

⁶ 戦略的イニシアティブ・エージェンシー (SIA) についてはロシア関連メモ No.70「戦略的イニシアティブ・エージェンシー (SIA) の意味」(2011.6.3) http://www.cipps.org/group/russia_memo/070_110603.pdf 参照。